

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成29年11月24日(2017.11.24)

【公表番号】特表2015-535015(P2015-535015A)

【公表日】平成27年12月7日(2015.12.7)

【年通号数】公開・登録公報2015-076

【出願番号】特願2015-538362(P2015-538362)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/67 (2006.01)

C 0 8 G 18/42 (2006.01)

C 0 8 G 18/72 (2006.01)

C 0 8 G 18/66 (2006.01)

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

C 0 9 D 175/14 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 18/67

C 0 8 G 18/42 Z

C 0 8 G 18/72 W

C 0 8 G 18/66 D

C 0 8 F 290/06

C 0 9 D 175/14

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年10月16日(2017.10.16)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0195

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0195】

例

比較例1：

攪拌容器中に、2-ヒドロキシエチルアクリレート34部；Lupraphen（登録商標）VP 9184 73部（112mg KOH/gのOH価を有する、アジピン酸、イソフタル酸およびヘキサンジオールから形成されたポリエステルジオール）；Laromer（登録商標）LR 8986 294部（214mg KOH/gの平均OH価および3.8モル/kgの二重結合密度を有するエポキシアクリレート）；ジメチロールプロピオン酸28部；1,4-ブタンジオール24部；Pluriol（登録商標）A500E 35部（110mg KOH/gのOH価を有する、キャップがメチル化された一官能性ポリエチレングリコール）；Basonat（登録商標）I 188部（111g/molのNCO当量を有するイソホロンジイソシアネート）；Basonat（登録商標）HI 100 66部（3の平均官能価および190g/molのNCO当量を有する、ヘキサメチレンジイソシアネートをベースとしたポリイソシアネート）；HDI 25部（84g/molのNCO当量を有するヘキサメチレンジイソシアネート）；2,6-ジ-*t*-ブチル-*p*-クレゾール0.4部；4-ヒドロキシーTempo 0.2部およびアセトン135部を予め装入し、かつ室温でBorchikat（登録商標）240.5部（ビスマスカルボキシレート）を添加した。混合物を80℃へ加熱し、かつ80℃で8時間反応させた。NCO値は、0.65%であり、その後に反応混合物をアセトン200部で希釈した。トリエチルアミン17部を添加した。30分間にわたり、脱塩水12

00部を注入し、かつアセトンを真空中で留去した。分散液の固体含量を41%に調節した。淡青色の分散液の粘度は、92nmの平均粒径で26mPasであった。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0203

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0203】

【表1】

	比較例1	比較例2	比較例3
固体含量 1)	41質量%	39.1質量%	41.0質量%
粘度 2)	26 mPas	72 mPas	57 mPas
pH値	7.7	7.6	7.9
外観	乳白色、白色	乳白色、白色	半透明
粒径 3)	92 nm	89 nm	73 nm
ガラス転移温度 オンセット 4)	-9.6 °C (やや粘着性 -3)	-2.9 °C (粘着性 -4)	(最小の粘着性 -1)
ガラス転移温度 オフセット 4)	19.4 °C	27.3 °C	n.b.*
加熱後の荒さ; R_a / R_q 5)	406nm / 547nm 極めて深刻な ユズ肌	529nm / 682nm 極めて深刻な ユズ肌	174nm / 303nm 良好な皮膜形成 / 平滑な表面
木理の強調 6)	2 ~ 3	1.5	4
UV 硬化後の 振子硬度 7)	114	104	120
UV 硬化前の 振子硬度 7)	0	2	6
外観 8)	2	3	3
耐化学薬品性の試験	4.9	n.b.*	5.0

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

本質的に

(a) 少なくとも1つの(環式)脂肪族ジイソシアネートおよび／または(環式)脂肪族ポリイソシアネート、

(b1) 700g/mol未満のモル質量を有する、少なくとも1つの(環式)脂肪族ジオール、

(b2) 700~2000の質量平均モル質量 M_w を有する、少なくとも1つのポリエステルジオール、

(c) イソシアネートに対して反応性の少なくとも1個の基および少なくとも1個のラジカル重合性不飽和基を有する、少なくとも1つの化合物(c)、

(d) イソシアネートに対して反応性の少なくとも 1 個の基および少なくとも 1 個の酸基を有する、少なくとも 1 つの化合物、

(e) 成分 (h 1) および (h 2) とは異なる、成分 (d) の酸基を少なくとも部分的に中和するための少なくとも 1 つの塩基、

(f) 厳密に 1 個のヒドロキシ官能基を有する、任意の少なくとも 1 つのモノアルコール、

(g) 任意の少なくとも 1 つの一官能性ポリアルキレンオキシドポリエーテルアルコール、

(h 1) 1 個または 2 個の炭化水素基で置換され、それらの炭化水素基が一緒になって少なくとも 12 個の炭素原子を有する、少なくとも 1 つのアミン、ならびに

(h 2) 少なくとも 2 個の第一級アミノ基および／または第二級アミノ基を有する、任意の少なくとも 1 つの化合物

から形成されたウレタン (メタ) アクリレート (A)。

【請求項 2】

成分 (a) が、脂肪族ジイソシアネートおよび／または脂肪族ポリイソシアネート (a 1) と環式脂肪族ジイソシアネートおよび／または環式脂肪族ポリイソシアネート (a 2) との混合物であることを特徴とする、請求項 1 記載のウレタン (メタ) アクリレート。

【請求項 3】

成分 (b 1) が、エチレングリコール、1, 2-プロパンジオール、1, 3-プロパンジオール、2, 2-ジメチル-1, 2-エタンジオール、2, 2-ジメチル-1, 3-プロパンジオール (ネオペンチルグリコール)、1, 2-ブタンジオール、1, 3-ブタンジオール、1, 4-ブタンジオール、1, 6-ヘキサジオールおよびジエチレングリコールからなる群から選択されていることを特徴とする、請求項 1 または 2 記載のウレタン (メタ) アクリレート。

【請求項 4】

成分 (b 2) が、少なくとも部分的に脂肪族ジオール構成単位および／または脂肪族ジカルボン酸構成単位から形成されているポリエステルジオールであることを特徴とする、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載のウレタン (メタ) アクリレート。

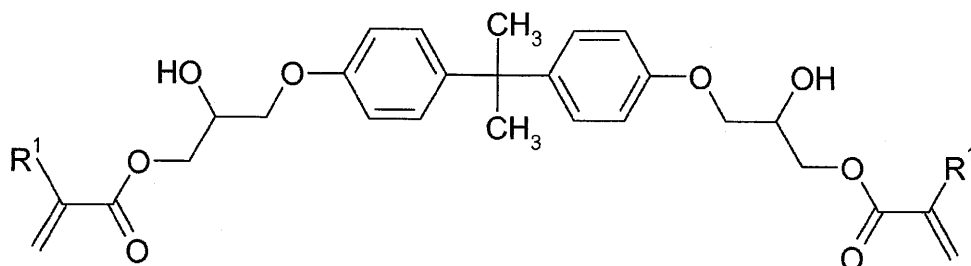
【請求項 5】

成分 (c) が、2-ヒドロキシエチルアクリレート、2-ヒドロキシエチルメタクリレート、2-ヒドロキシプロピルアクリレートもしくは 3-ヒドロキシプロピルアクリレートおよび 1, 4-ブタンジオールモノアクリレート、グリセリンの 1, 2-ジアクリレートもしくは 1, 3-ジアクリレート、トリメチロールプロパンジアクリレート、ペンタエリトリットリアクリレート、ジトリメチロールプロパントリアクリレートおよびジペンタエリトリットペンタアクリレートからなる群から選択されていることを特徴とする、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載のウレタン (メタ) アクリレート。

【請求項 6】

前記化合物 (c) が式

【化 1】



〔式中、

R¹は、水素またはメチルを表わす〕のエポキシ (メタ) アクリレートであることを特徴

とする、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載のウレタン（メタ）アクリレート。

【請求項 7】

成分 d) がジメチロールプロピオン酸およびジメチロール酪酸からなる群から選択されていることを特徴とする、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項に記載のウレタン（メタ）アクリレート。

【請求項 8】

化合物（h 1）の 2 個のアルキル基がそのつど互いに独立して、少なくとも 6 個の炭素原子を含むことを特徴とする、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載のウレタン（メタ）アクリレート。

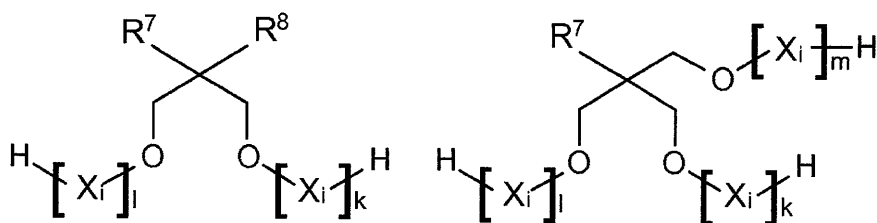
【請求項 9】

請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項に記載の少なくとも 1 つのウレタン（メタ）アクリレートおよびさらに、少なくとも 2 個の（メタ）アクリレート官能基および 1000 g/mol までの平均分子量を有する、少なくとも 1 つの（メタ）アクリレート（B）を含有する被覆材料。

【請求項 10】

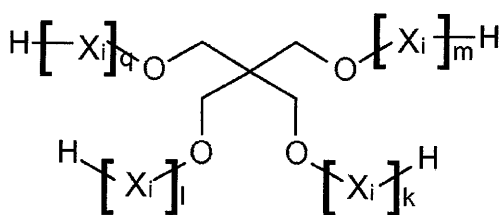
（メタ）アクリレート（B）が式（VIIIa）～（VIIId）

【化 2】

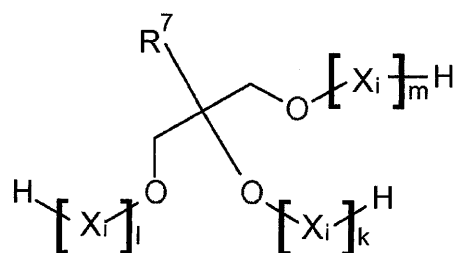


(VIIIa)

(VIIIb)



(VIIIc)



(VIId)

〔式中、

R^7 および R^8 は、互いに独立して、水素を表わすか、または、任意にアリール、アルキル、アリールオキシ、アルキルオキシ、ヘテロ原子および／またはヘテロ環式基によって置換された $C_1 \sim C_{18}$ アルキルを表わし、

k 、 l 、 m 、 q は、それぞれ互いに独立して、 $1 \sim 10$ の整数を表わし、かつ

各 X_i は、 $i = 1 \sim k$ 、 $1 \sim l$ 、 $1 \sim m$ および $1 \sim q$ につき、互いに独立して、 $-CH_2-CH_2-O-$ 、 $-CH_2-CH(CH_3)-O-$ 、 $-CH(CH_3)-CH_2-O-$ 、 $-CH_2-C(CH_3)_2-O-$ 、 $-C(CH_3)_2-CH_2-O-$ 、 $-CH_2-CHVin-O-$ 、 $-CHVin-CH_2-O-$ 、 $-CH_2-CHPh-O-$ および $-CHPh-CH_2-O-$ からなる群から選択されていてよく、

ここで、 Ph は、フェニルを表わし、かつ Vin は、ビニルを表わす〕の化合物の（メタ）アクリレートであることを特徴とする、請求項 9 記載の被覆材料。

【請求項 1 1】

請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項に記載のウレタン（メタ）アクリレートまたは請求項 9 もしくは 1 0 記載の被覆材料で被覆された基材。

【請求項 1 2】

前記被覆材料で被覆された基材が、被覆されたオーク、トウヒ、マツ、ブナ、カエデ、クリ、プラタナス、アカシア、トネリコ、カバノキ、カサマツ、ニレ、クルミまたはマコレであることを特徴とする、請求項 1 1 記載の被覆材料で被覆された基材。

【請求項 1 3】

基材を被覆する方法において、請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項に記載のウレタン（メタ）アクリレートまたは請求項 9 もしくは 1 0 記載の被覆材料を基材上に施与し、引き続き乾燥させ、かつ放射線硬化させることを特徴とする、前記方法。

【請求項 1 4】

前記被覆材料で被覆された基材が、被覆されたオーク、トウヒ、マツ、ブナ、カエデ、クリ、プラタナス、アカシア、トネリコ、カバノキ、カサマツ、ニレ、クルミまたはマコレであることを特徴とする、請求項 1 3 記載の方法。

【請求項 1 5】

被覆材料として、または被覆材料における、請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項に記載のウレタン（メタ）アクリレートの使用。

【請求項 1 6】

前記被覆材料で、木材、紙、繊維、皮革、フリース、プラスチック表面、ガラス、セラミック、鉱物質建築材料、金属、コーテッドメタル、紙、板紙または厚紙が被覆されることを特徴とする、請求項 1 5 記載の使用。

【請求項 1 7】

前記被覆材料で、オーク、トウヒ、マツ、ブナ、カエデ、クリ、プラタナス、アカシア、トネリコ、カバノキ、カサマツ、ニレ、クルミ、マコレまたはコルクが被覆されることを特徴とする、請求項 1 5 記載の使用。